

北諸県農業改良普及センター  
(北諸県農林振興局)

# 北諸版！ 産地分析を活用した酪農の 産地改革支援活動について

## 1 活動のねらい

北諸県管内の酪農は、戸数142戸、経産牛頭数4,954頭と戸数・頭数ともに県内の約半分を占め、後継者も全体の3割ほどという県内最大の産地です。しかし、管内でも少しずつ高齢化等による離農が進み、産地全体の生産性向上による競争力強化が急務となってきています。平成25年度策定された宮崎県畜産新生プランでは、平成32年度までに乳用牛1頭1000kgの乳量増を目指しています。

その目標を達成するため、都城・北諸酪農担当技術員会（以下、「技術員会」という）と連携し、産地分析を活用した支援活動行ってきました。

## 2 活動の経過

### (1) 支援体制と重点支援農家の選定

産地分析を平成24年度から牛群検定データ等をもとに実施し、酪農家や酪農部会全体の課題を整理し、課題解決のための必要な支援を技術員会でを行っています。

支援体制（図1）としては主にJA都城、南部酪農、経済連及び普及センターが中心となり、他の関係機関とも連携を取りながら支援チームを結成しています。支援にあたっては、2ヶ月に1回開催される技術員会で産地分析結果に基づく重点支援農家の選定（平成25年度6戸＋平成26年度3戸）や指導内容等の情報の共有化を図っています。



図1 地域の支援体制図

### (2) 各農家への具体的な取組方法

具体的改善の取組は農家と話し合いながら技術員会一体となって行います（図2）。

#### ① 問題の抽出（ステップ①）

支援農家の産地分析結果（図3）をもとに技術員会で課題を整理し支援農家への巡回を行います。一回目の巡回時には産地分析結果の説明とアンケート調査を実施し、農家自身の意見や意欲を確認するとともに、改善内容や改善順序に反映させるようにしています。アンケート内容は搾乳形態、搾乳手順、牛舎内外の環境、繁殖管理、飼料給与体系、自給飼料作付け体系、乳牛の更新方法等あらゆる観点から細かく聞き取り、改善内容につながる手がかりを模索します。



図2 各農家への具体的支援の流れ

② 改善内容のとりまとめ（ステップ②）

巡回結果をもとに改善の内容を大きく3つに分類し整理し（表1）、再度関係機関で話し合い、改善内容によっては参加する関係機関を検討し支援チームを編成しています。

③ 具体的改善に向けた支援（ステップ③）

2回目の巡回時には、具体的改善案の提示と今後支援していく構成メンバーの承認を得ます。

次に、農家の意向を反映させながらすぐ実践できることから改善の方法や時期等を明確にして、継続的巡回支援を行っています。

改善内容としては、繁殖や飼料給与の関係するものが多いため、支援チームで巡回とともにNOSA Iの繁殖検診や飼料メーカーによる各ステージに合った飼料メニューの検討も行いながら、乳量、乳質等の生産性と繁殖成績の向上の両立を目指し支援を行っています。

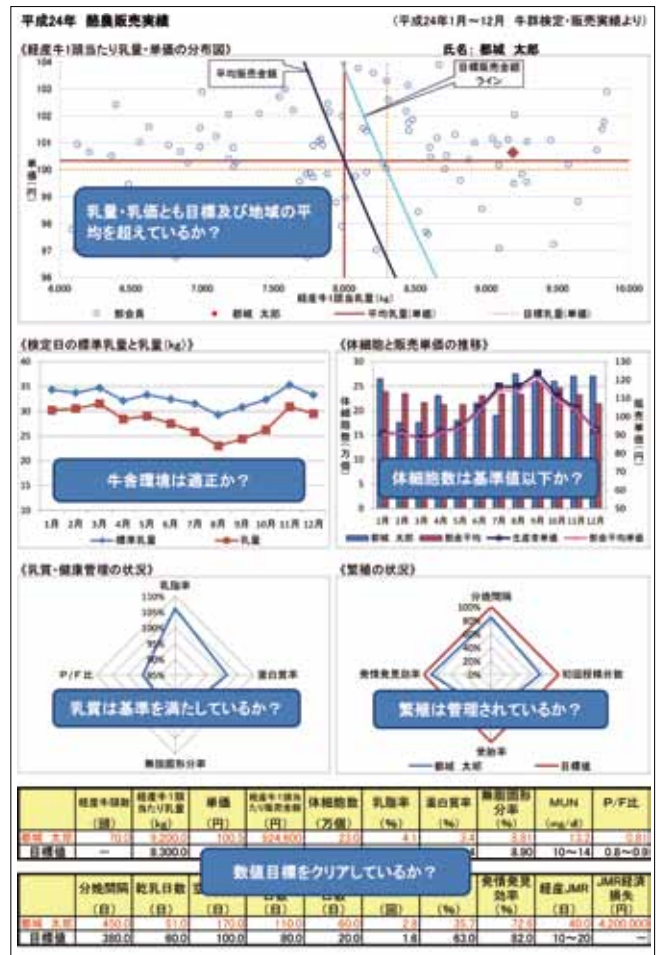


図3 支援農家の分析結果（例）

### 3 産地分析の成果

重点支援農家のほとんどが乳量や乳質がやや劣っていたものの、その改善策が具体化できていませんでしたが、産地分析結果をもとに自分の部会内での位置づけが分かったことで、問題点や改善策について「気づき」が生まれました。

その結果、個別巡回等による支援機関の助言に耳を傾け実践する農家が増え、乳量の増加につながっています。

### 4 今後の方向

重点支援農家への改善が少しずつ進んできていますが、今後は、この産地分析を活用し重点支援体制を拡大していくとともに、他の農家への改善手法に活用できるような支援体制の継続と充実を図り、1戸でも多くの生産性向上を目指していきたいと思っています。

### 5 対象集団又は対象農家の声

産地分析で自分の部会内での位置づけが分かることができた。また、継続的に関係機関と一緒に支援してくれるので、指導内容もわかりやすく、実践も行いやすかった。なにより、成績が上がったことが良かった。

表1 農家毎の改善内容整理表

農家名	繁殖成績		牛舎環境改善				飼料の増量		体細胞数の削減	JMR経済損失
	繁殖検診	産後経過	牛舎	水飲み場	乾乳牛舎	湿度対策	飼料の増量	体細胞数の削減		
A	①	②	②		②	②	③	③		
B	①		②				③	③		
C	①						③	③	②	
D	①		②	②			③	③		
E	③		②				①	③	②	
F	②	②					③	①		
G	②						③	①		
H	②	②					③	③	①	
I							①			

☆①②③:改善を行う順序

表1 農家毎の改善内容整理表